



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年10月30日

上場会社名 JCRファーマ株式会社 上場取引所 東
コード番号 4552 URL <https://www.jcrpharm.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 芦田 信
問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員経営戦略本部長 (氏名) 伊藤 洋 TEL 0797(32)1995
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 2024年12月6日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	16,657	△31.4	△739	—	△1,621	—	△691	—
2024年3月期中間期	24,272	55.8	6,898	826.2	7,126	353.9	5,253	445.6

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 1,788百万円 (△69.6%) 2024年3月期中間期 5,877百万円 (437.4%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	△5.53	—
2024年3月期中間期	42.10	41.90

(注) 2025年3月期中間期の「潜在株式調整後1株当たり中間純利益」については、潜在株式は存在するものの1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	104,622	57,049	54.1
2024年3月期	102,226	56,475	54.2

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 56,629百万円 2024年3月期 55,365百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2025年3月期	—	10.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,300	△3.7	5,400	△28.3	4,600	△36.7	3,700	△32.8	29.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 (社名) 一、除外 1社 (社名) Mycenax Biotech Inc.

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期中間期	129,686,308株	2024年3月期	129,686,308株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	4,189,502株	2024年3月期	4,881,914株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年3月期中間期	125,010,957株	2024年3月期中間期	124,787,306株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(会計方針の変更に関する注記)	10
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
3. その他	11
研究開発項目	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

①当期の経営成績

売上高は166億57百万円(前年同期比31.4%減)となりました。

遺伝子組換え天然型ヒト成長ホルモン製剤「グロウジェクト[®]」は、2024年4月に薬価改定があったものの販売数量が大きく増加したことにより増収となり、「イズカーゴ[®]点滴静注用10mg」も好調に推移しましたが、腎性貧血治療薬の減収等により、製品売上高は前年同期とほぼ水準となりました。その一方で、契約金収入および受託製造売上が減少したことなどにより、前年同期に比べて減収となりました。

また、積極的な研究開発活動の結果、研究開発費は18.8%増加し65億76百万円(前年同期比10億40百万円増)となりました。

これらの結果、7億39百万円の営業損失(前年同期は68億98百万円の営業利益)、16億21百万円の経常損失(前年同期は71億26百万円の経常利益)、6億91百万円の親会社株主に帰属する中間純損失(前年同期は52億53百万円の親会社株主に帰属する中間純利益)を計上しております。

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	増減
	金額(百万円)	金額(百万円)	%
売上高	24,272	16,657	△31.4
営業利益又は営業損失(△)	6,898	△739	—
経常利益又は経常損失(△)	7,126	△1,621	—
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失(△)	5,253	△691	—

②主な売上

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	増減
	金額(百万円)	金額(百万円)	%
ヒト成長ホルモン製剤 グロウジェクト [®]	8,746	9,401	7.5
ムコ多糖症Ⅱ型治療剤 イズカーゴ [®] 点滴静注用	2,556	2,845	11.3
腎性貧血治療薬	2,674	1,764	△34.0
エポエチンアルファBS注「JCR」	1,046	962	△8.0
ダルベポエチンアルファBS注「JCR」	1,628	801	△50.8
再生医療等製品 テムセル [®] HS注	1,901	1,521	△20.0
ファブリー病治療薬 アガルシダーゼベータBS点滴静注「JCR」	590	714	21.0
製品計	16,470	16,246	△1.4
契約金収入	7,112	15	△99.8

③研究開発の状況

[ライソゾーム病治療薬]

- ・当社では現在、17種類を超えるライソゾーム病治療薬について、独自の血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo[®]」を適用した新薬の研究開発に重点的に取り組んでおります。
- ・血液脳関門通過型ハンター症候群治療酵素製剤pabinafusp alfa(開発番号:JR-141)については、現在、グローバル臨床第3相試験が進行中であります。また、いわゆる軽症型の患者さんを対象としたCohort Bについて、目標としていた20例の症例登録が完了し、より重症な患者さんを対象としたCohort Aにおいても、60%以上の症例登録が完了いたしました。
- ・血液脳関門通過型ムコ多糖症Ⅰ型治療酵素製剤lepunafusp alfa(開発番号:JR-171)については、現在、日本・ブラジル・米国での13週間の臨床第1/2相試験を完了し、その継続試験を実施しております。また、当該品目については、自社開発ではなくライセンスアウトにより開発を進める方針であり、パートナー候補との導出交渉を進めております。
- ・血液脳関門通過型ムコ多糖症ⅢA型治療酵素製剤(開発番号:JR-441)については、ドイツにて臨床第1/2相試験が進行中であります。また、2024年上半期に、予定していた12名の症例登録を完了いたしました。また、日本国内においては2024年8月に臨床第1相試験の治験計画届が医薬品医療機器総合機構(PMDA)に受理され、試験開始に向けた準備を進めております。なお、2022年1月に欧州委員会(EC)より、2023年12月に米国食品医薬品局(FDA)よりオーファンドラッグ(希少疾病用医薬品)の指定を受けております。
- ・血液脳関門通過型ムコ多糖症ⅢB型治療酵素製剤(開発番号:JR-446)については、2023年9月に株式会社メディパルホールディングスと、海外における事業化についての実施許諾契約および日本における共同開発・商業化契約を締結いたしました。また、2024年5月に提出した治験計画届が医薬品医療機器総合機構に受理され、現在、臨床第1/2相試験の開始に向けた準備を進めております。
- ・その他のJ-Brain Cargo[®]を適用したライソゾーム病治療薬であるフコンドーシス治療薬(開発番号:JR-471)については、2022年10月に締結した実施許諾契約に基づき、株式会社メディパルホールディングスに対し、日本を除く全世界における研究・開発、製造および販売などの事業化に関する再実施許諾権付の独占的実施権を許諾いたしました。現在、臨床試験開始に向けた必要な研究等を進めております。

[基盤技術の創出]

- ・JCR独自の血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo[®]」の様々なモダリティへの応用可能性を広げる研究の他、J-Brain Cargo[®]技術に続く新たな基盤技術の創出に注力しております。その成果のひとつとして、J-Brain Cargo[®]技術を適用した新しい遺伝子治療技術について、2024年5月に公表を行いました。こちらは、アデノ随伴ウイルスにJ-Brain Cargo[®]を修飾することで、肝臓への取り込みを低減して脳へと効率的にベクターを送達できる遺伝子治療技術であり、新たなプラットフォーム技術として開発を進めております。

[再生医療等製品]

- ・「テムセル[®]HS注」の新たな適応拡大として新生児低酸素性虚血性脳症(開発番号:JR-031HIE)に対する開発を進めてきましたが、臨床第1/2相試験において期待していた有効性を示すことができなかったことを踏まえ、当開発の中止を決定いたしました。

[ヒト成長ホルモン製剤]

- ・長時間作用型遺伝子組換えヒト成長ホルモン製剤(開発番号:JR-142)の臨床第2相試験の継続試験を実施中であります。また、2024年7月に臨床第3相試験の治験計画届が医薬品医療機器総合機構に受理され、現在、試験開始に向けた準備を進めております。

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末における資産合計は1,046億22百万円(前連結会計年度末比23億96百万円増)、負債合計は475億72百万円(前連結会計年度末比18億22百万円増)、純資産合計は570億49百万円(前連結会計年度末比5億73百万円増)となりました。

流動資産は、棚卸資産が増加した一方で、現金及び預金および売掛金及び契約資産が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ12億74百万円減少して563億7百万円となりました。固定資産については、新製剤工場建設に伴う建設仮勘定等の有形固定資産および投資有価証券が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ36億70百万円増加して483億14百万円となりました。

流動負債は、未払法人税等および未払消費税が減少した一方で、短期借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ39億98百万円増加して341億33百万円となりました。固定負債は、長期借入金が増加したことなどにより21億76百万円減少して134億38百万円となりました。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する中間純損失の計上、配当金の支払および新株予約権が減少した一方で、自己株式の減少およびその他有価証券評価差額金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ5億73百万円増加して570億49百万円となりました。

これらの結果、当中間連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.1ポイント低下して54.1%となりました。

当社グループがグローバルで持続的な成長を行うため、機動的かつ安定的に資金調達手段を確保する必要があり、各金融機関との間で、バックアップラインとして運転資金を確保する事を目的として、総額495億円のコミットメントライン契約を締結しております。

なお、このうち265億円については、新製剤工場の建設に関する資金調達のために締結したものであります。この新製剤工場の建設は、経済産業省「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業」に採択されており、同事業における補助金を用いて当該建設を行います。当コミットメントライン契約につきましては、補助金受領までの必要資金に充当することを目的としたものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ4億84百万円減少して182億71百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況および主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、11億9百万円(前年同期比46億30百万円の支出増)となりました。これは主に、売上債権の減少額25億79百万円、減価償却費の計上額16億67百万円があった一方で、税金等調整前中間純損失の計上額5億56百万円、棚卸資産の増加額18億30百万円、未払消費税等の減少額18億18百万円、法人税等の支払額14億51百万円があったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、29億62百万円(前年同期比16億74百万円の支出増)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出29億92百万円があったことなどによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、38億52百万円(前年同期比46億13百万円の収入増)となりました。これは主に、配当金の支払額12億48百万円があった一方で、短期借入金の純増額51億12百万円があったことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間の連結経営成績は前年同期比で減収減益となりました。

2025年3月期の業績予想に関しましては、2024年5月10日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,756	18,271
売掛金及び契約資産	14,934	12,354
商品及び製品	2,111	2,332
仕掛品	6,220	7,642
原材料及び貯蔵品	12,602	12,790
その他	2,955	2,915
流動資産合計	57,581	56,307
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,140	13,681
土地	10,587	10,587
建設仮勘定	171	2,912
その他(純額)	5,141	4,572
有形固定資産合計	30,040	31,754
無形固定資産		
特許権	2,158	2,019
その他	1,338	1,228
無形固定資産合計	3,496	3,247
投資その他の資産		
投資有価証券	9,120	12,084
その他	1,991	1,232
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	11,107	13,312
固定資産合計	44,644	48,314
資産合計	102,226	104,622
負債の部		
流動負債		
買掛金	890	540
短期借入金	8,950	16,262
未払法人税等	1,657	122
圧縮未決算特別勘定	11,996	11,996
賞与引当金	1,016	1,178
役員賞与引当金	114	63
その他	5,510	3,969
流動負債合計	30,135	34,133
固定負債		
長期借入金	14,350	12,150
従業員株式給付引当金	81	96
退職給付に係る負債	903	931
その他	280	261
固定負債合計	15,615	13,438
負債合計	45,750	47,572

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,061	9,061
資本剰余金	10,384	10,392
利益剰余金	37,278	36,517
自己株式	△2,963	△2,542
株主資本合計	53,761	53,429
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	741	2,604
繰延ヘッジ損益	△0	7
為替換算調整勘定	731	466
退職給付に係る調整累計額	132	120
その他の包括利益累計額合計	1,604	3,199
新株予約権	812	75
非支配株主持分	297	345
純資産合計	56,475	57,049
負債純資産合計	102,226	104,622

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	24,272	16,657
売上原価	5,881	4,330
売上総利益	18,391	12,326
販売費及び一般管理費	11,493	13,066
営業利益又は営業損失(△)	6,898	△739
営業外収益		
受取利息	41	68
受取配当金	13	17
為替差益	671	—
その他	69	49
営業外収益合計	796	134
営業外費用		
持分法による投資損失	507	398
支払利息	40	63
支払手数料	10	41
減価償却費	—	98
為替差損	—	404
その他	10	9
営業外費用合計	568	1,016
経常利益又は経常損失(△)	7,126	△1,621
特別利益		
新株予約権戻入益	—	393
契約解約益	—	627
その他	—	44
特別利益合計	—	1,065
特別損失		
固定資産処分損	5	0
特別損失合計	5	0
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	7,120	△556
法人税、住民税及び事業税	2,387	24
法人税等調整額	△527	100
法人税等合計	1,860	124
中間純利益又は中間純損失(△)	5,260	△680
非支配株主に帰属する中間純利益	7	10
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失(△)	5,253	△691

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	5,260	△680
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	73	1,863
繰延ヘッジ損益	—	8
為替換算調整勘定	103	208
退職給付に係る調整額	△0	△12
持分法適用会社に対する持分相当額	441	401
その他の包括利益合計	617	2,469
中間包括利益	5,877	1,788
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	5,857	1,740
非支配株主に係る中間包括利益	20	48

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	7,120	△556
減価償却費	1,335	1,667
持分法による投資損益(△は益)	507	398
新株予約権戻入益	—	△393
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	43	21
賞与引当金の増減額(△は減少)	216	162
株式報酬費用	71	9
受取利息及び受取配当金	△55	△85
支払利息	40	63
為替差損益(△は益)	△682	457
売上債権の増減額(△は増加)	△9,376	2,579
未収入金の増減額(△は増加)	733	69
棚卸資産の増減額(△は増加)	△757	△1,830
仕入債務の増減額(△は減少)	△443	△350
未払金の増減額(△は減少)	816	159
未払消費税等の増減額(△は減少)	1,263	△1,818
その他	445	△228
小計	1,278	325
利息及び配当金の受取額	55	85
利息の支払額	△40	△68
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	2,228	△1,451
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,521	△1,109
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△838	△2,992
その他	△449	30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,288	△2,962
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△6,900	5,112
長期借入れによる収入	8,650	300
長期借入金の返済による支出	△750	△300
社債の償還による支出	△500	—
自己株式の純増減額(△は増加)	11	15
配当金の支払額	△1,249	△1,248
その他	△22	△26
財務活動によるキャッシュ・フロー	△761	3,852
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,217	△264
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,689	△484
現金及び現金同等物の期首残高	13,278	18,756
現金及び現金同等物の中間期末残高	15,968	18,271

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過措置及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過措置に従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

当社グループは「医薬品事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

3. その他

研究開発項目

遺伝子組換え医薬品

開発番号 (物質名)	開発段階	適応症等	備考
J R - 1 4 1 (血液脳関門通過型遺伝子組換え イズロン酸-2-スルファターゼ)	グローバル: 臨床 第3相試験	ムコ多糖症Ⅱ型 (ハンター症候群)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
J R - 1 7 1 (血液脳関門通過型遺伝子組換え α -L-イズロニダーゼ)	グローバル: 臨床 第1/2 相試験	ムコ多糖症Ⅰ型 (ハーラー症候群等)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用 「J-MIG System [®] 」採用
J R - 1 6 2 (J-Brain Cargo [®] 適用遺伝子組換え酸性 α -グルコシダーゼ)	前臨床	ポンペ病	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
J R - 4 4 1 (血液脳関門通過型遺伝子組換え ヘパランN-スルファターゼ)	グローバル: 臨床 第1/2 相試験	ムコ多糖症ⅢA型 (サンフィリップ症候群A 型)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
J R - 4 4 3 (血液脳関門通過型遺伝子組換え β -グルクロニダーゼ)	前臨床	ムコ多糖症Ⅶ型 (スライ症候群)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
J R - 4 4 6 (血液脳関門通過型遺伝子組換え α -N-アセチルグルコサミニダーゼ)	前臨床	ムコ多糖症ⅢB型 (サンフィリップ症候群B 型)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
J R - 4 7 9 (血液脳関門通過型遺伝子組換え β -ヘキソサミニダーゼA)	前臨床	GM2 ガングリオシドーシス (テイ・サックス病、サン ドホフ病)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
J R - 4 7 1 (血液脳関門通過型遺伝子組換え α -L-フコシダーゼ)	前臨床	フコシドーシス	酵素補充療法 「J-Brain Cargo [®] 」採用
J R - 1 4 2 (遺伝子組換え持続型ヒト成長ホルモン)	臨床 第2相試験	小児成長ホルモン分泌不全 性低身長症	「J-MIG System [®] 」採用